



写真家・石川直樹による フォトアーキペラゴ写真学校 2025年秋、第11期スタート!

瀬戸内の香川県高松市で2015年に始まった「フォトアーキペラゴ写真学校」は、この秋、節目となる11期目がスタートします。ただいま、第11期受講生を募集中です。アーキペラゴ (ARCHIPELAGO) とは、『多島海』のこと。大小さまざまな島がつながって景観をつくる瀬戸内海のように、この学校も、受講生一人ひとりの写真が織りなす新しい景色を見つけていきます。受講申込など詳細は、フォトアーキペラゴの公式サイトをご覧ください。 <http://school.photo-archipelago.com/>



講師 石川直樹 (写真家)

「写真技術を習得するのは容易だが、写真について考えを深めていくのはそんなに簡単ではない。普段は当たり前すぎて思い返すことなどないことを、もう一度ゼロから思考し直す必要があるからだ。でも、だからこそ思いがけないことに気づく。ぼくは『フォトアーキペラゴ写真学校』を、学びの場である以上に、気づきの場になればいいなあとと思っている。」

1977年東京都生まれ。東京芸術大学大学院美術研究科博士後期課程修了。人類学、民俗学などの領域に関心をもち、辺境から都市まであらゆる場所を旅しながら、作品を発表し続けている。『CORONA』(青土社)により土門拳賞を受賞。『まれびと』(小学館)、『EVEREST』(CCCメディアハウス)により、2020年、日本写真協会賞作家賞を受賞。2021年より、三木町フォトコンテストの特別審査員を務める。2022年、香川県で撮影した写真集『MOMENTUM』(青土社)を刊行。

【主催】

一般社団法人
フォトアーキペラゴセトウチ
✉ school@photo-archipelago.com
📘 facebook.com/photo.archipelago



写真を通じて、四国・中国地方の暮らしや文化を見つめ、写真に関心がある方々の受け皿となるようなプラットフォームになることを目指し、2016年に設立(代表理事 石川直樹)。定期的な講座や写真学校などのワークショップ、広報物などを通じて、地域における写真の可能性を押し広げ、人と人をつなぐネットワークを作るきっかけづくりをしています。

講座の流れ

BOOK / PHOTO ARCHIPELAGO

写真における思考を深めるための冊子『フォトアーキペラゴ』。01号では、石川直樹と姫野希美(赤々舎)の対談や写真家へのインタビュー、レビューなどを掲載。現在、01号から最新刊の05号まで購読いただけます。



座学

写真の歴史や知っておいてほしい写真家の話など、毎回テーマを変えて講義を行います。



ゲストレクチャー

いろいろな写真家や批評家、編集者にふれることで、写真の幅を広げます。(全10回のうち数回を予定)。



写真集のレビュー

気になる写真集や写真関連の書籍を持ち寄り、感想を共有しながら写真に対する理解を深めます。



ポートフォリオレビュー

写真のプリント(20枚以上)を1人ずつ机に並べて講師に見ていただきます。



グループ展

今期の集大成として、また実践を通して展示の仕方を学ぶため、作品展示を行います。

